



ヴァージン トレイン R3

第8話

本当に
望まぬ
快樂

あのときの
ホテルでの一件

それ以降は
本当に
何もなかった

カタン カタン

電車の中で

あの男の人は
たまにみかける
こともあった

それでも
痴漢はしてこない

どれだけ
近くにいても
まったく私に
触れてこない

あんなに…

私のことを
あんなに…
してたのに…



次の日も…

次の日も…

何も起きない

電車に乗っても

痴漢をされない日々…

何もない日々…

ガタン ガタン

当たり前といえ
ば当たり前
なんだけど…

100%heart

まるで

あんなに激しく
電車の中で
イカされたのが

夢だったかのように

ガタン ガタン



電車に乗ってるだけで

あそこが濡れてきて…

止まらない…!!



痴漢されなくなって

ホッとしてるはずなのに…



見ず知らずの男に
痴漢されることなんて

あんなにイヤだった
はずなのに…



カタンカタン…

カタンカタン…

私…

電車の中で
疼いた体を
ひきずって

家に帰ると

毎晩のように
オナニーにふける…

あの人からもらった
ローターで…



いけないと
分かっているも
止められない

しかも
オナニーしながら
思い浮かべるのは

電車の中で
無理やりあの人に
犯されている私：





こんなの…!!
ズン
ザン

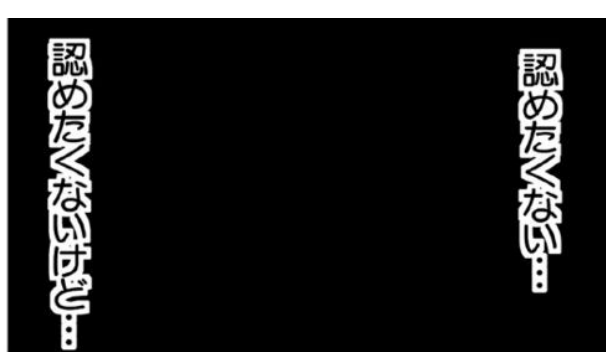


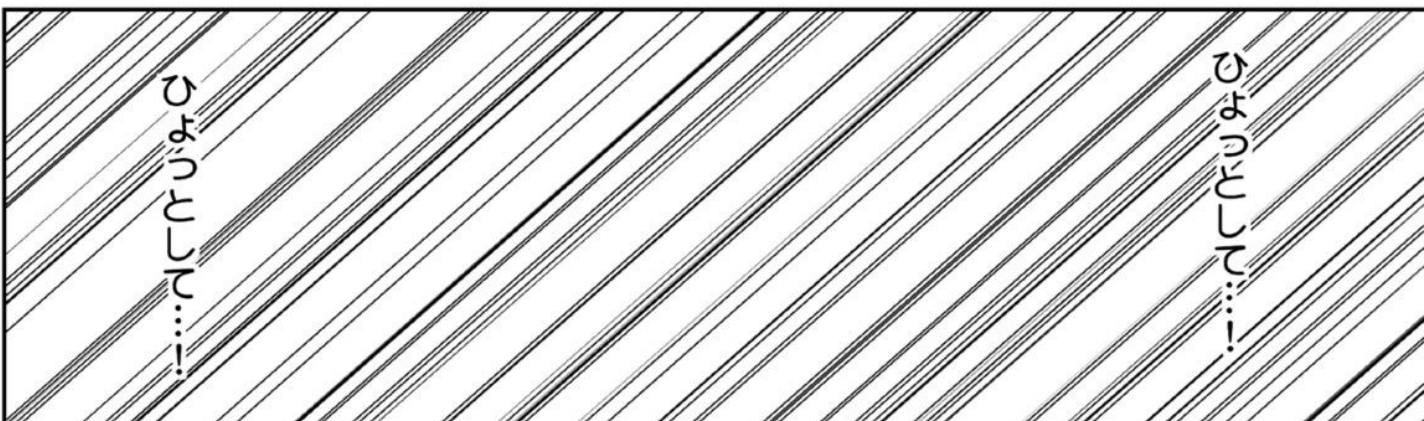
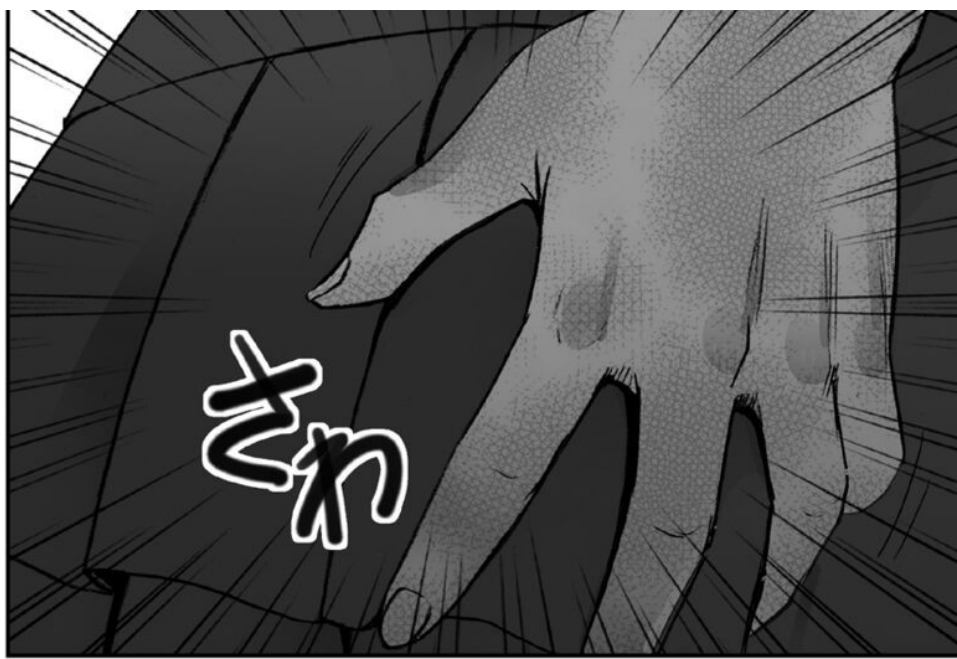
タメ…!!
ズン

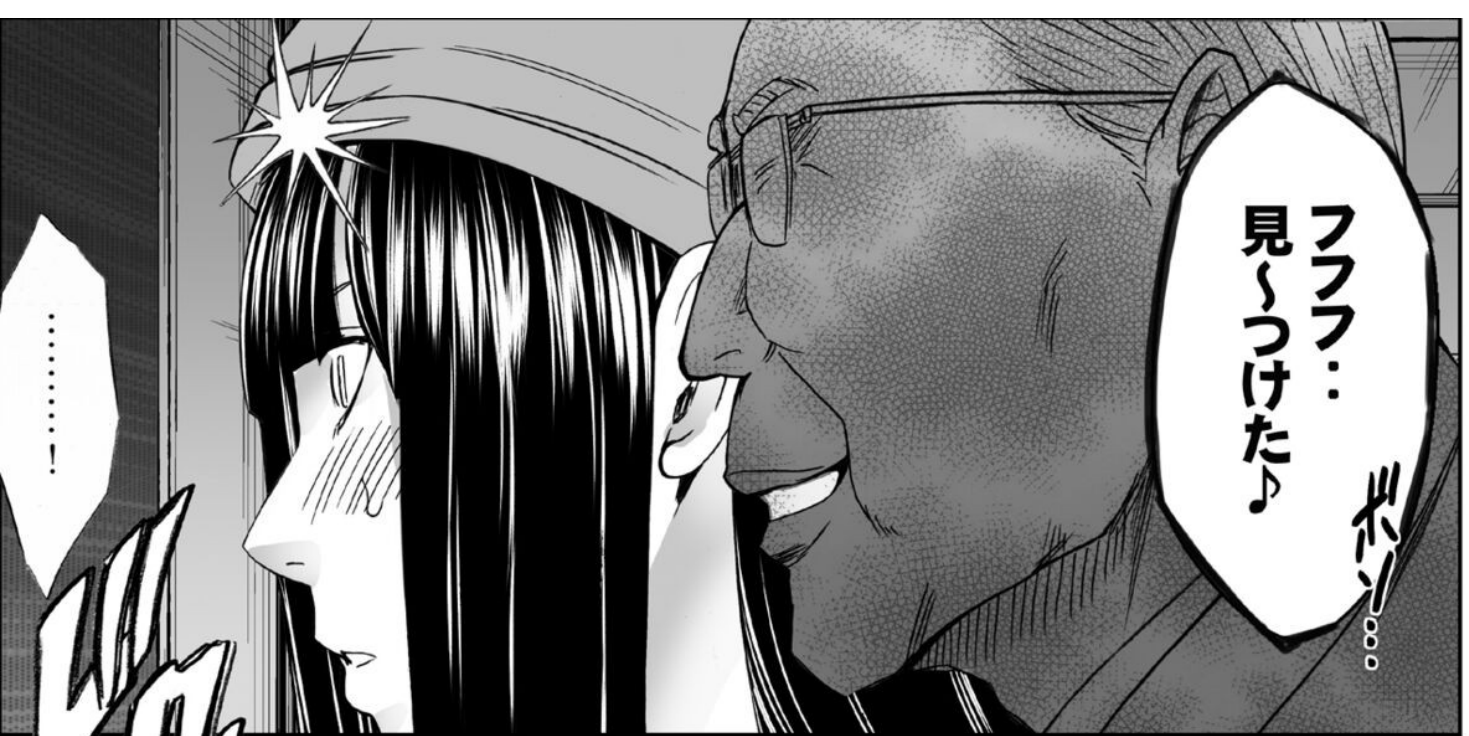


私…何を考えてるの!!

こんなの…







フフフ：
見つけた♪

ホッ



ねえ
キミ...

一ヶ月くらい前に
この電車で
ものすごい痴漢に
あったたよねえ

違う...

これは...

あの人じゃ
ない...!!



あの時の！
見られてた？

あんなに
電車の中で感じてる
女のコは初めて見たよ

まさか
電車の中で
イクなんてねえ



誰...？

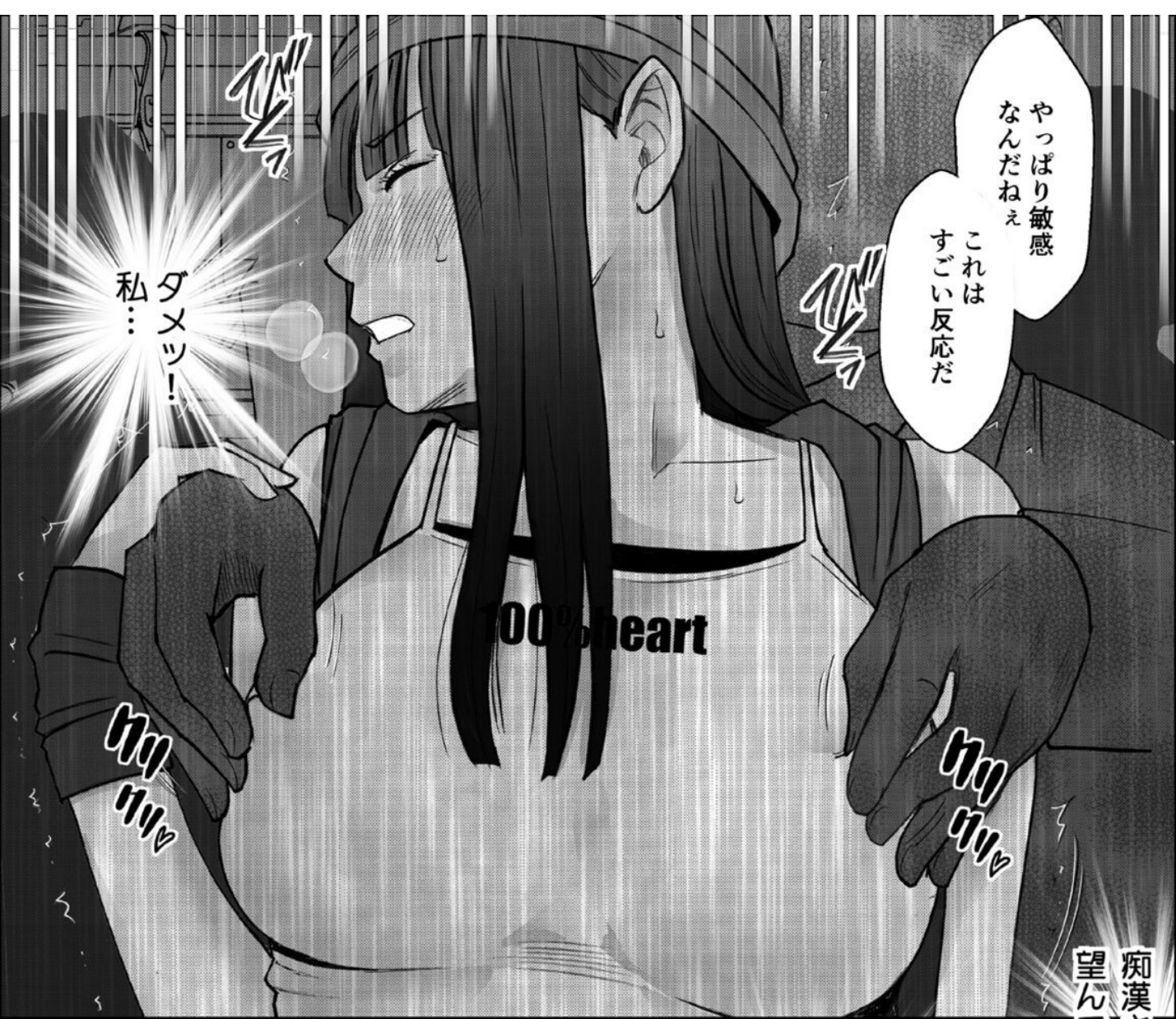
いやあ...
あれはすごかったねえ...

ワタシも
何年も痴漢やってるけど

誰なのこの人...!!

カッタン
カッタン











ほらほら
どうです？
あの男よりも
うまいでしょう？

違う…！

違う…！

びくびく

びくびく

ひひひひ

ゆるゆる

びくびく

ち…違う…！
これは…！

おおっ
もう濡れまくって
ますよ

やっぱり
感じてるみたいだねえ？

あの人とは
何かが違う…！

アハハ

いいんだよ
遠慮せず…

アハハ

アハハ

アハハ

こんなの…！

イキたかったら
イケばいいんだよ

どんなに触られても
嫌悪感しかない！

ほらほら
イッてよ

ワタシ達に
イキ顔を
見せてよ

もうこれ以上

触られたくない…！

ん

大勢の男に
囲まれて
なすすべも無く
責められて…

イヤでイヤで
しょうがなかったけど

ホント
すごいッスね
この女

そうでしょう？

イヤがつてるのに
感じてる

100%heart

心の中で
こう誓っていた

それでも
私は

とんでもない
エロい体の
マゾ女なんですよ
このコは

勝手に反応して…

あの人に
開発されていた
私の体は



ズンズン

こんな人の手じゃ

ズンズン

ズンズン

ググ

ググ

絶対にイカない！

100%heart

イカない…!
イカない…!

何をされても…!

イキたくも
ないし…!

こんなの
気持ちよくも
何ともない!

私:
こんな人達の手じゃ
絶対にイカされない!

100%heart

あゝ
やっぱり
こうすると
感じるんだね

分かってきたよ
感じるツボが

違う…!!
違うッ!

感じてなんか
ないッ!

ホント
かわいいね〜

女子大生だよな?

こんなのじゃ
なかった…!!

名前は何ていうの?
教えてよ

こんなふうに
集団で囲んで…

力づくで無理やり…
抑え込んで…

あの人のときは
こんなのじゃなかった!

あの人のときは…!!



でも
あの人は違う

あの人は
一枚一枚
扉を開けて
私の中に入ってきて...

もっと
私の中に...

をねっ...



携帯のアラームを
セットした

60:00

停止

あの人は…

今から一時間後
このアラームが
鳴るまでに

キミがずっと
拒否し続けたのなら
キミの勝ちだ

今後一切
痴漢はしないし

なんならオレを警察に
突き出してもいい

でももし
キミが一度でも
自分の意志で

最後までしてほしいと
いうことを
認める行動を取ったら

キミの負けだ

あの人は…

まあ

「負け」と言っても
そのときは

キミのして欲しいことを
するわけだから



そのとき
私は

自分の気持ちが
はつきりと
分かった…



私は…

キミのして欲しいことを
するわけだから



他の人に
触られることで

はつきりと
自分音気持ちに
気づいた

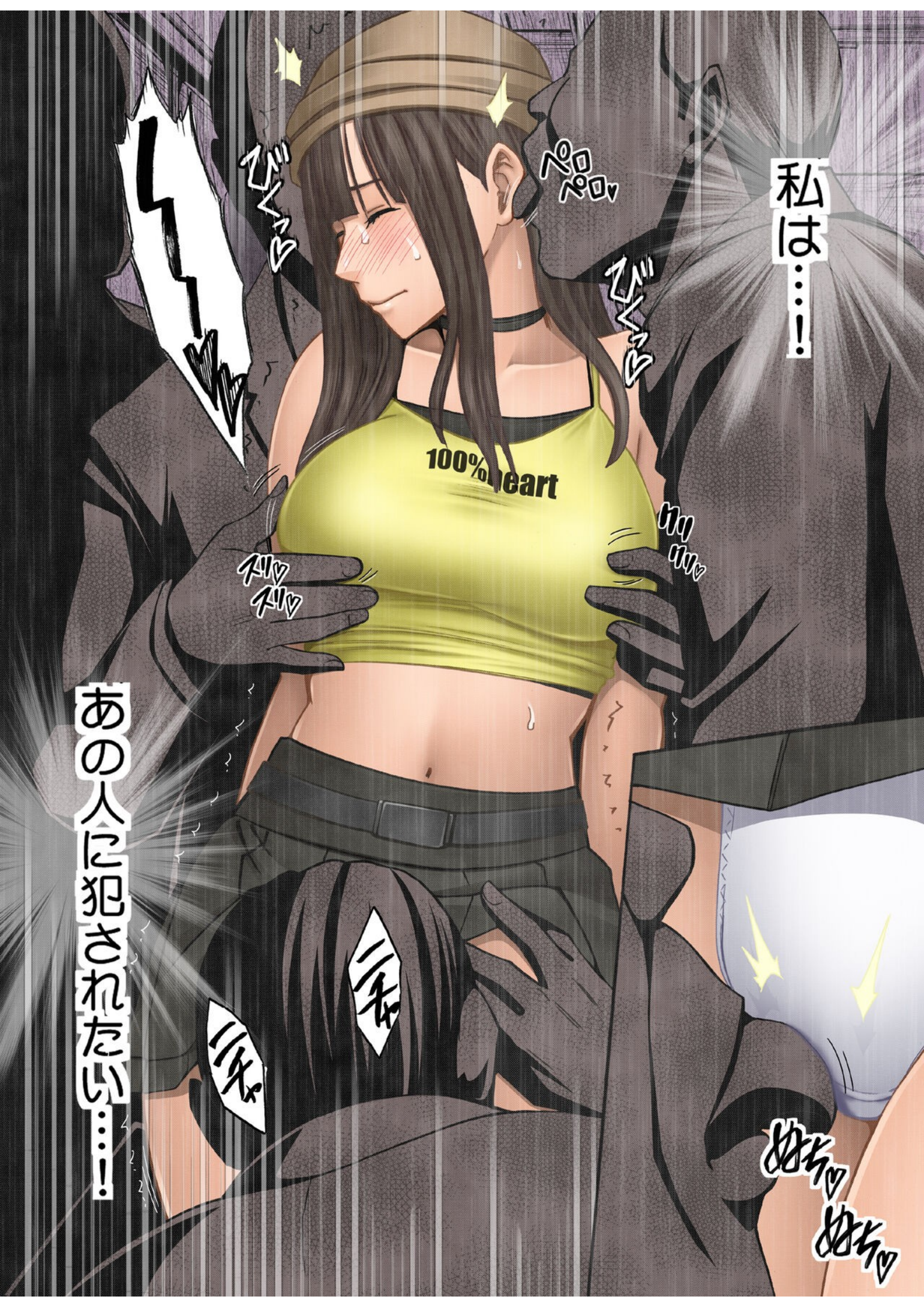


私は…

私は…!!

あの人に犯されたい…!!

100% heart







これだけはダメッ！

100%heart

バキ

バキ

ドン

ドン



これは...!!

100%heart

普段から持ち歩くほど
使い慣れた
ローターですからね

よっぽど
気に入ってるん
ですかねえ

あの人の
ローターだから...!!



この人達の
手なんかじゃ

ニャニャ



何をされても
イカないけど...

ちょっと
押しあてただけで
すごい反応だ



このローターは
ダメツ!



あの人にもらった
ローターだから…!!

これで
責められるとツ!

私はHなのよ
なんかしない!

痛いの!
絶対だ!

いろいろ
思い出しすぎて…!!



ダメっ!!

イキますよ

電車の中で
イキますよオ!



ガマンできない!!



イツちゃう!!



お?
イキそうですね?

ほら
もっとしっかり
押されて



いきなくないのに!!

イカされちゃう!!

びく

びく

びく



うるうる

おやおや？

イッた？
今
イッたよね？

カラダが
ビクビクって
なりましたよ？



おや？

おや？



はあ

はあ



そんな...
私...

否定しても
ムダですよ

こんな人たちの前で
イッて...

うるうる

はあ

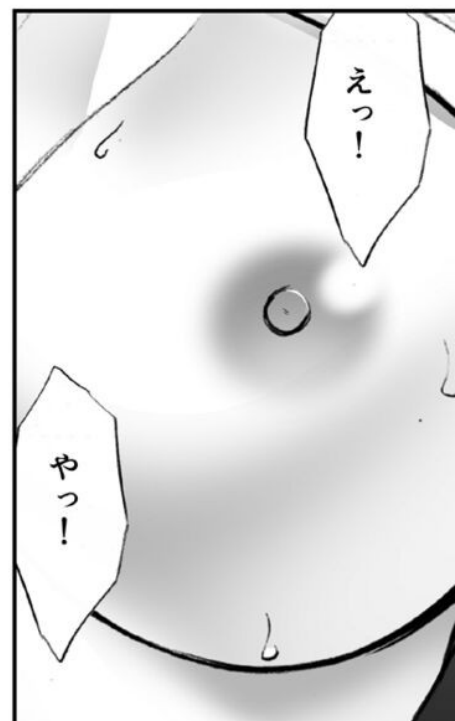


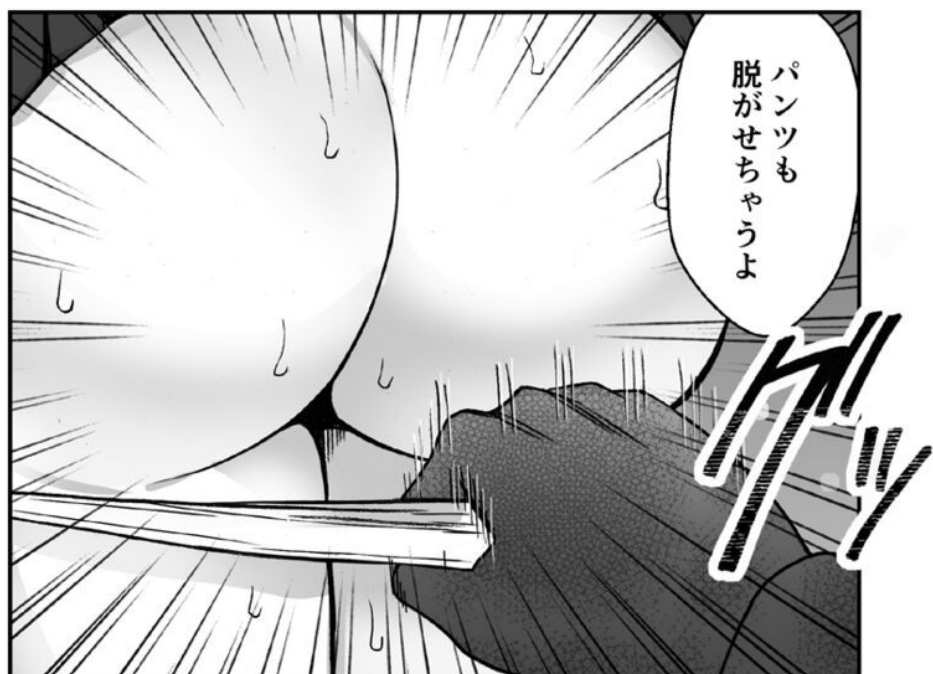
フフフフ
サイコーですよ
キミは

ホントにHな
女のコだ

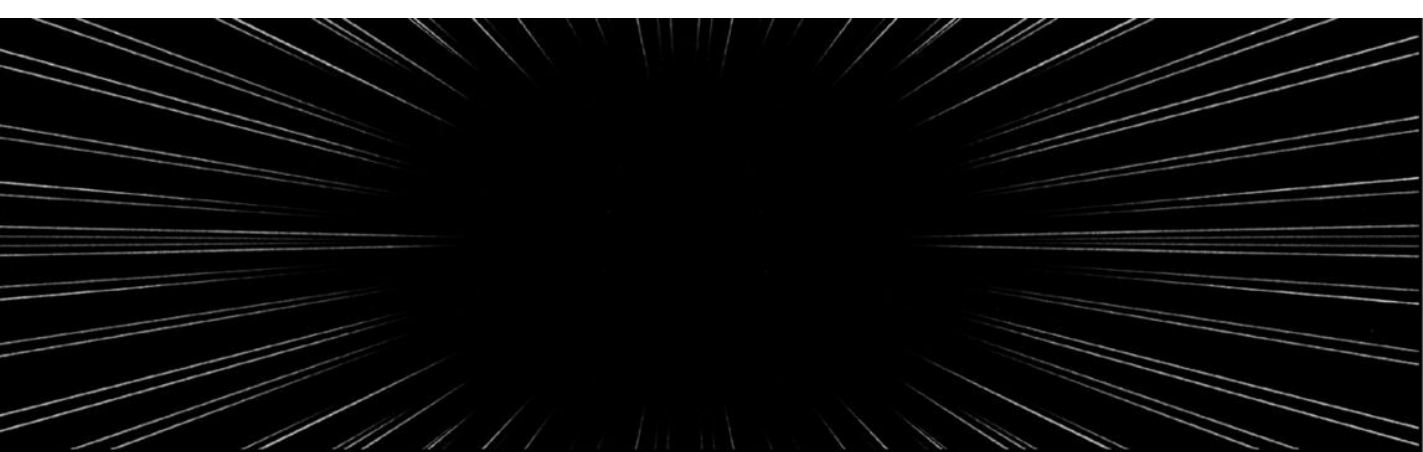
ニヤニヤ

さて...
一度
イカせたんだからー











今……

犯されたいと
思っていた
相手が

突然目の前に
現れて……

しかも
痴漢としてではなく

私を痴漢から
助けてくれる人として……

私は
どうすればいいのか

何も
わからなくなって

どうしたの？
不思議そうな
顔して……

痴漢されてた
みたいだったから
助けたただけけど？

何か
おかしい事でも
ある？

そしたら
やっぱり

この人は

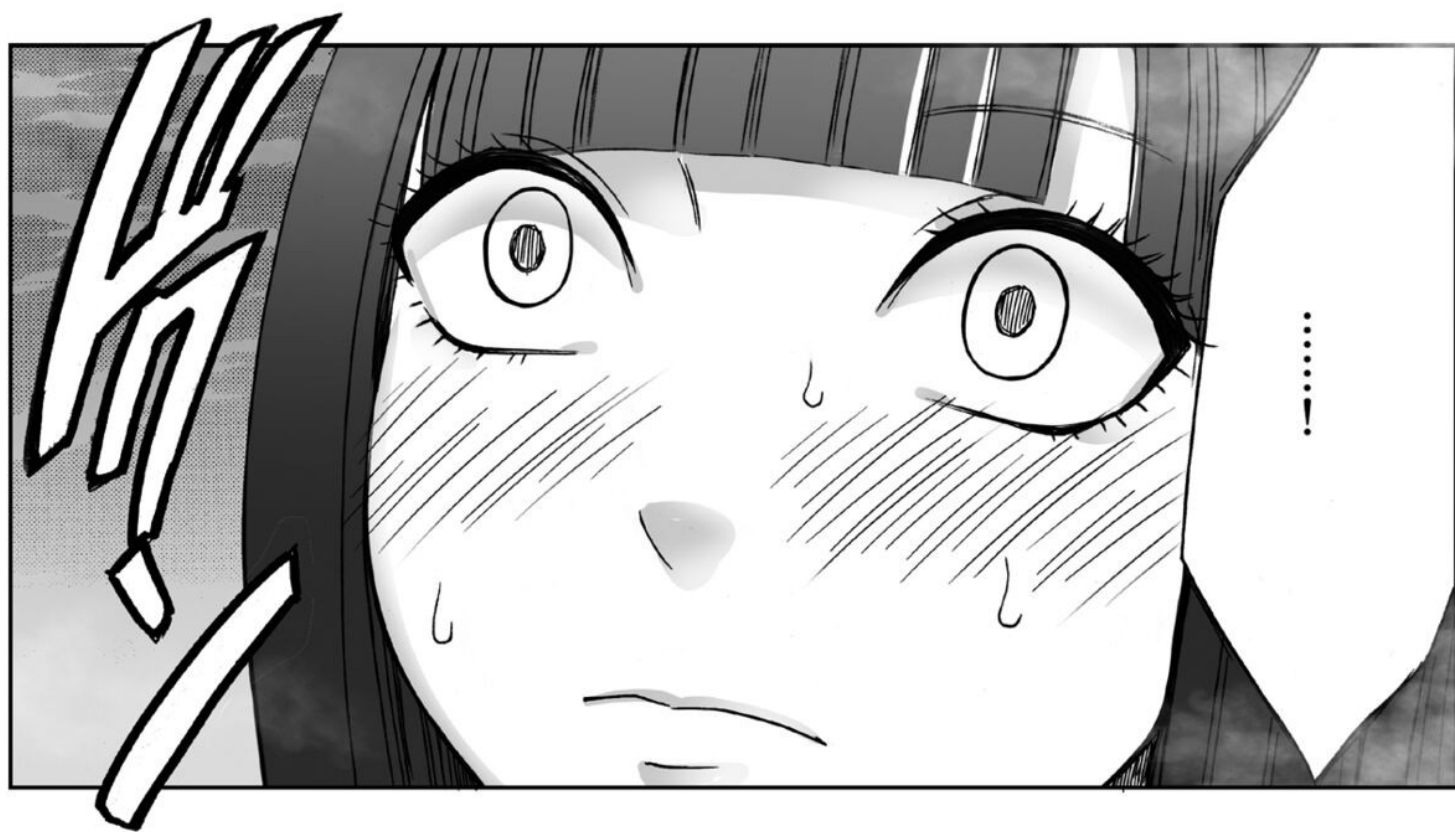
私の事を……



結構
いろいろひどいこと
されてた
みたいだね

このまま
大学にも
いけないだろうし

一度
自宅まで
送ろうか？



……！



私の心を

捉えてきた

最終話

結合



そのまま
言われるがままに
一緒に自宅に…

「あの人」に
助けてもらった私は

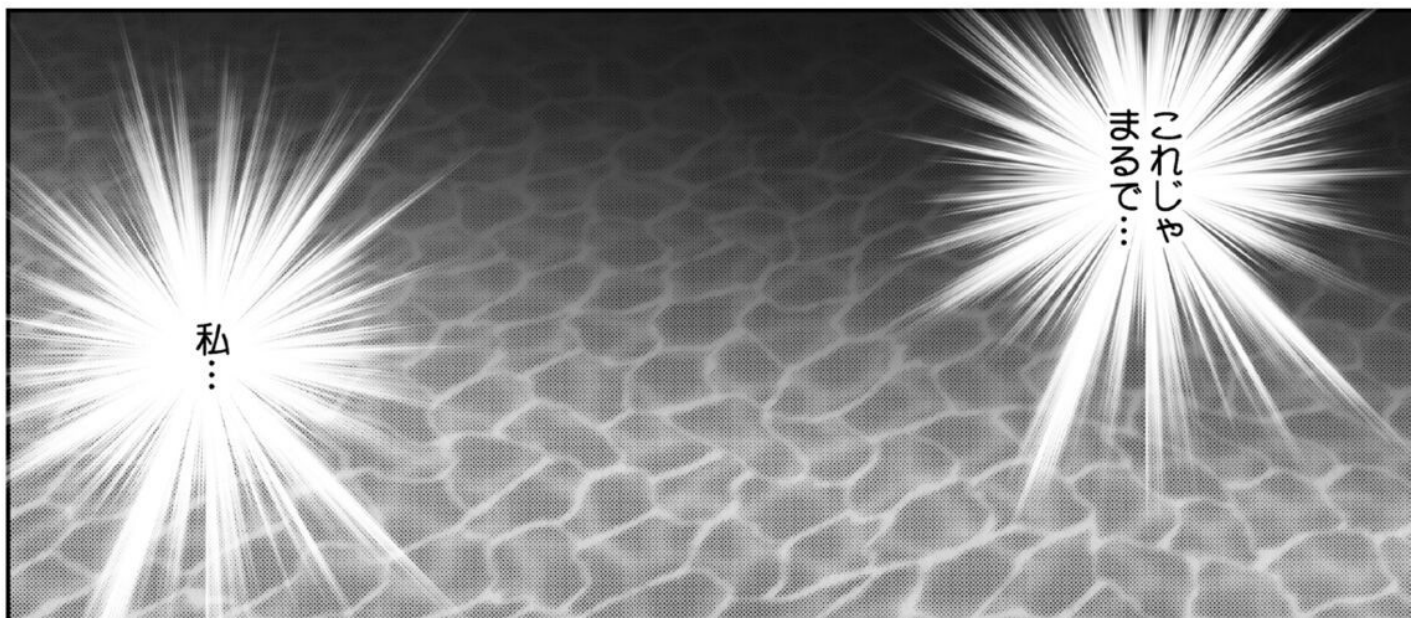


やだ…
私…

何でこんなところに…

自分の家に
男の人をあげるなんて…

こんなの絶対に…

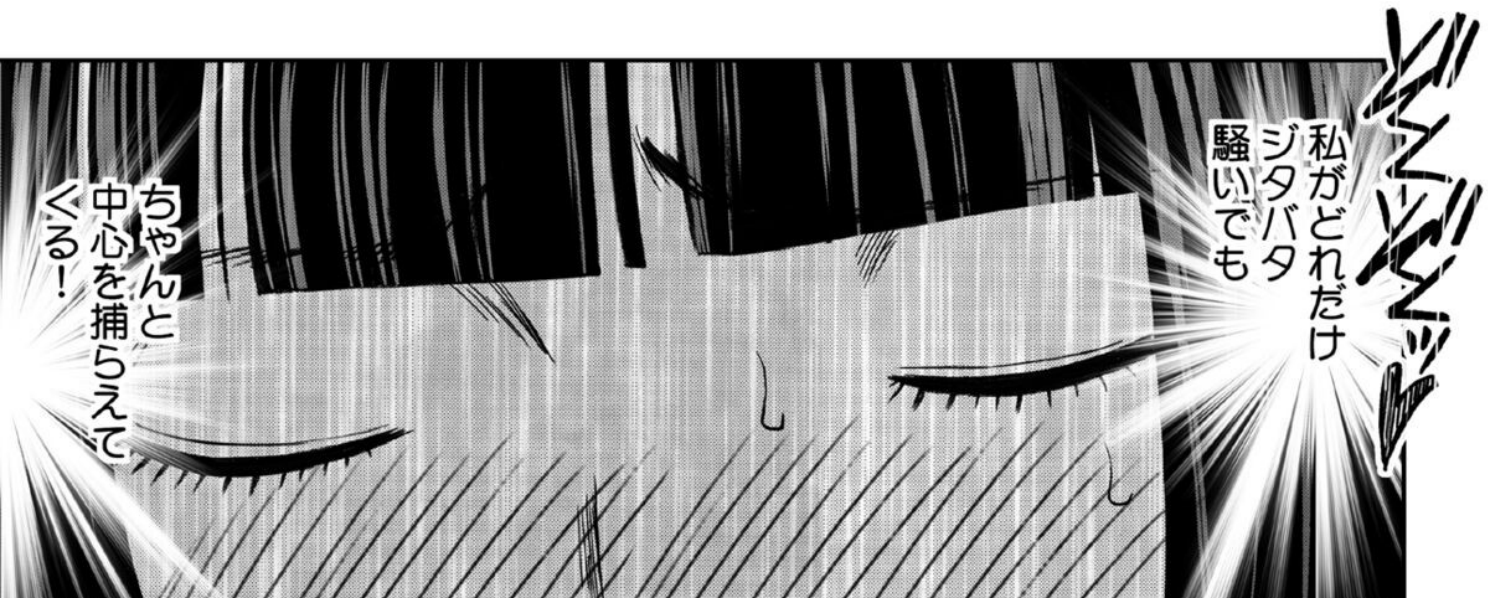


これじゃ
まるで…

私…







ああ…

ちひさ…

ちひさ…

私…

この人に
支配されたい…!!



それから
一時間

ほら
今 頭の中で
思っていることを

口に出して
行っってください？

え…あ…

私は
またあのホテルの
ときのように

焦らされ続けた

やっ…
やめて…
ください…

刺
刺
刺
刺

いつのまにか
足も拘束され

フフフ…
そうじゃないだろ？

まだ理性が
あるんだね

ちゃんと全てを
認めるまで
いつまでも
続けるよ

逃げることも
股を閉じることも
出来ず

じつくりと
体中の各部分の快感を
呼び覚まされては

フル♡フル♡

イク直前で
手を緩められる

その繰り返し





ついには
手も拘束され

完全に
身動きも出来なくなり

股間の
一番気持ちいい部分を
集中的に舐められたり



舌をアソコの中に入られて

自分でも
触ったことのないような
部分をねぶられたり…





実際の
時間としては
一時間だったとしても

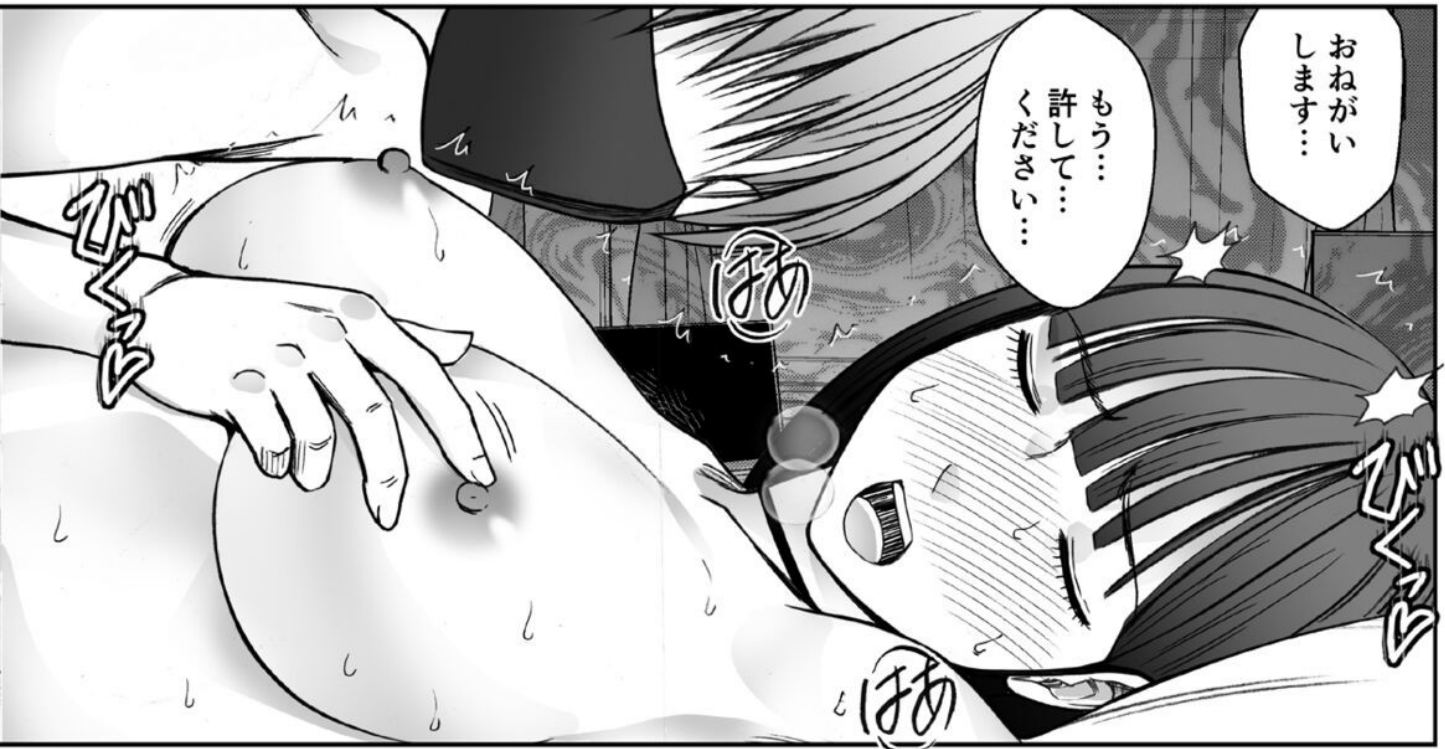
まるで何十時間も
拷問され続けている
ような

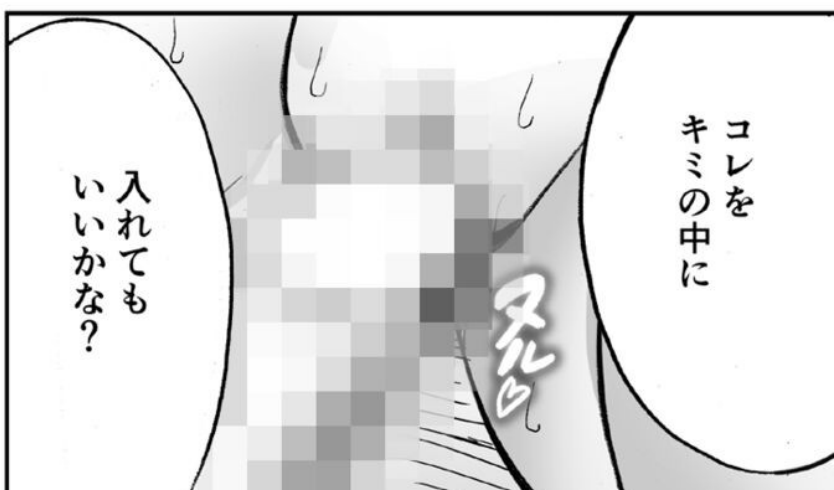
そんな感覚だった

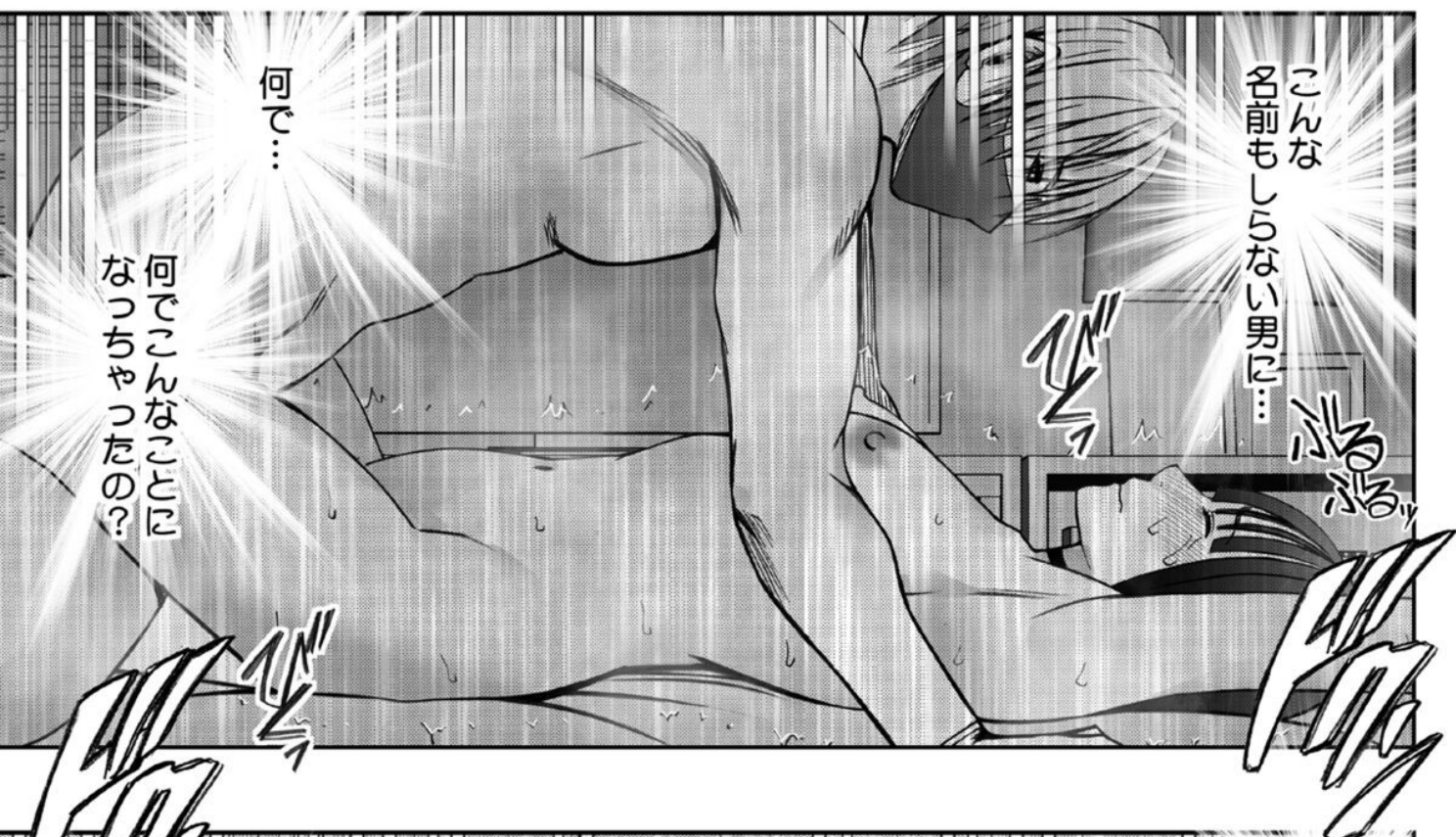
実際の時間としては
1時間だったと
しても

まるで
何十時間も
拷問され続けている
ような

そんな
感覚だった









拘束されて
逃げることも
できない



何時間も…

いや…あのホテルでの
ゲームから数えれば
何日間も焦らされて…



しかも相手は
電車で犯されそうに
なったところを
助けてもらった人…



これだけ
そろえば

十分だった
かもしれない—
私の…

名前も知らない男に
処女をささげることへの

入れても
いいよね？

「いいわけ」は

そして私は
男の人の問いかげに

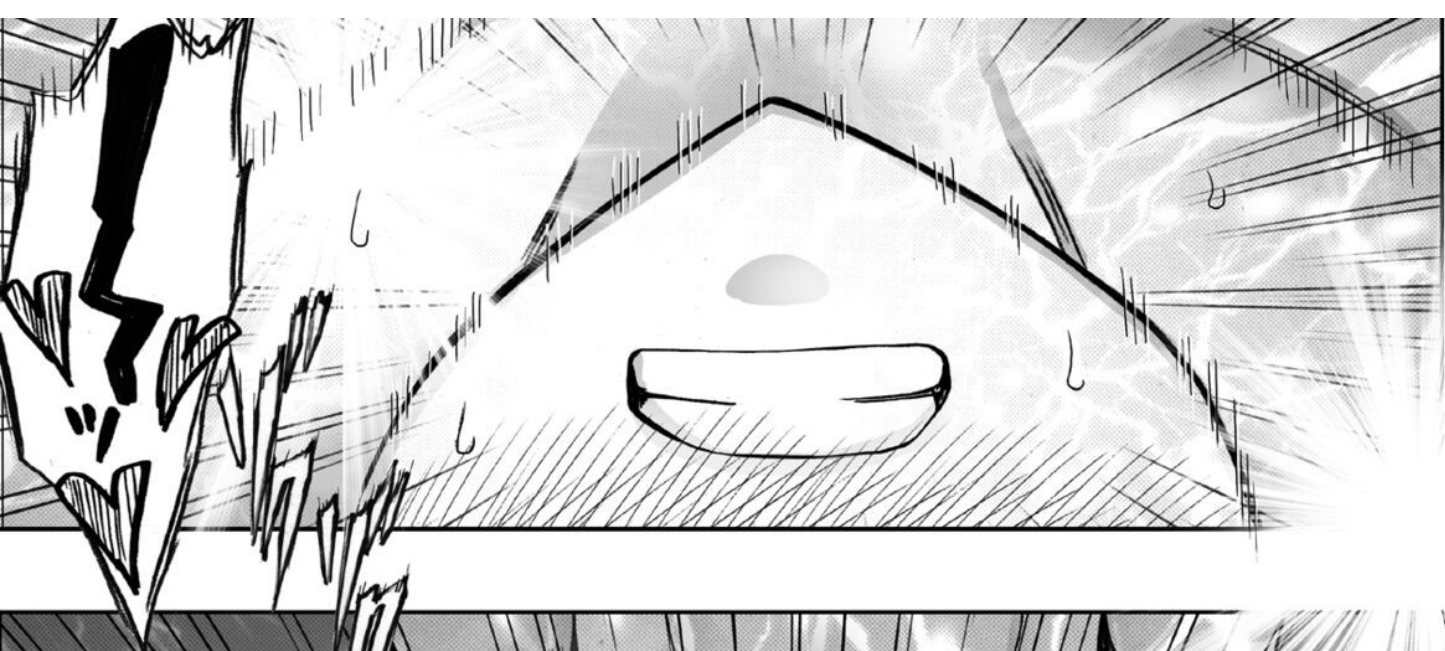
アッ

黙って
うなずいて…

グッ









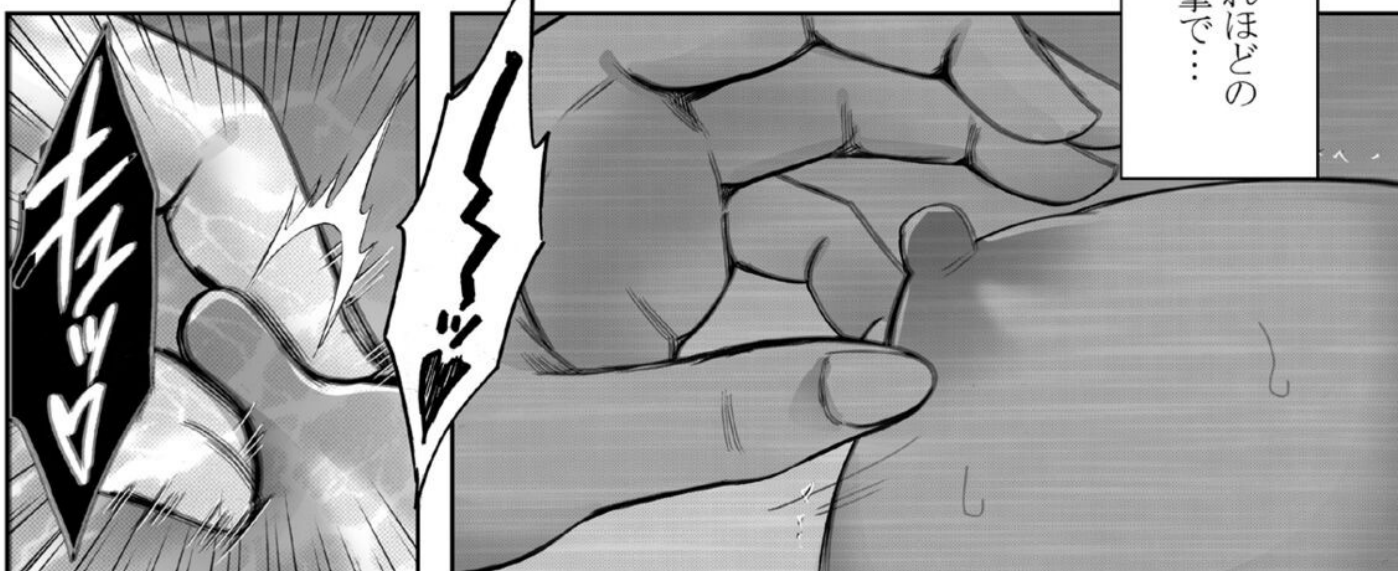


あまりの衝撃



もし
拘束されてなかったら
ガマンできなくなつて
逃げ出しそうだった

それほどの
衝撃で...





乳首を
つままれたとき

全身の快感神経が
つながったみたいになつて



快感が
私の許容量を
はるかにオーバーして…



入れられて
わずか数秒で

私は…



本当に…!

もう逃げたり
しないよね

拘束は
外してあげよう



私…

入れられてる…!!



こんな
見ず知らずの人に…!!

入れられて
イカされてる…!

手足は自由に
使っていいから

少しくらいは
快感をガマンして



気を
失わないようにね



キミの
カラダは

もうダメ……!

もう

私のカラダは……！！

オレを
受け入れている

ザッザッ

グ
ン
ン

ああ…!!

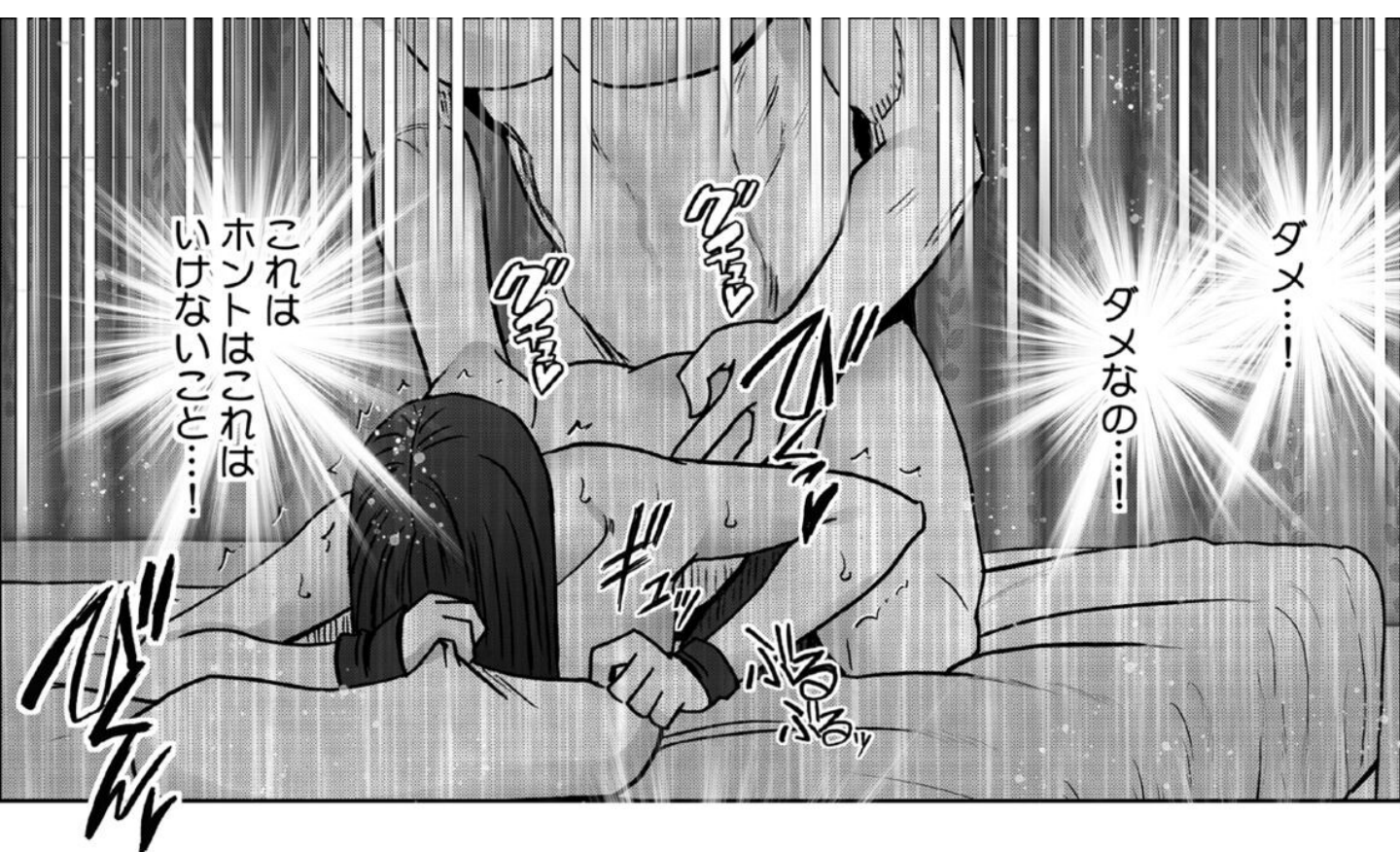
気持ちいい…!!

んん

また

イッちゃう…!!





ダメ…！

ダメなの…！

これは
ホントはこれは
いけないこと…！



素顔さえ
名前さえも
知らない人に
犯されて

イキまわって…！



セックスは
心の通じあつたのも同士で
する行為

でも…
私は今…！

恋人でない
どころか

こんなの
ホントは
いけないこと……!!

だから……
私は……

今の……
私にできることは……!!



私にできる
こと……

もうこれしか
なかったのかも
しれない





私の名前は
黒羽みつですッ！

年は
20歳…ッ！

出身地は
●●で…！

相手のことを
何も知らないのなら

せめて
自分のことを
もっと知ってもらおうと
思っ…

そうすれば
少しは心も
つながるかと思っ



でも...



!!



口を塞がれて
それも封じられて

何も抵抗させて
もらえなくなつて…

やっぱり
この人は

すべてを
見透かしてくる

アソコの中と
口の中

両方が
男の人のもので
いっぱいになって
圧迫されて

私の理性は
どんどん押しやられて



もっ完全に...!

この人に...!

びゅる

ズズズ

あぁ...!

私...!

ズズズ

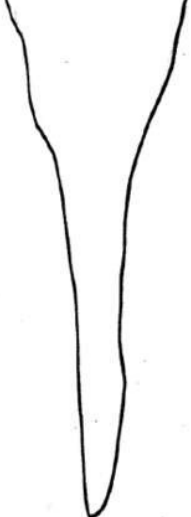


そして
私はその瞬間は



「その人に」

完全に
征服された



嬉しさなのか
悲しさなのか
気持ちよさなのか
安堵なのか
分からない

いろんな感情が
混ざった涙が

私の中から
排出された…

それから

私とあの人の
関係は

無くなったわけ
ではない

でも
私はいまだに

この人の名前も
知らないから

いつか
知ることが
できるのだろうか

この人のすべてを...



あとがき

ヴァージントレインR完結です。
リメイクということで
こまかいところはいろいろ変更しましたが
ラストの展開は基本的には同じにしました。

ただ やはり最後のシーンの演出は
難しかったですね。

リメイク前の作品も持っている方は
是非 見比べてみてください。